

## 韓国語の文末名詞化構文の意味拡張の可能性 —日本語の文末名詞化構文との対照を通して—

呉 守鎮 (名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士課程) ・ 堀江 薫 (名古屋大学)

### 1. はじめに

現代韓国語における名詞化辞は、大きく日本語の「もの、こと」に相当する形式名詞「-것(-kes)」と、述語の語幹に結合する「-로/음(-m/um)」「-기(-ki)」(以下では「kes」「um」「ki」と表記する)という三つに分けられ、それらは文中あるいは文末に生起する。

本研究では韓国語の「kes」「um」「ki」の三つの名詞化辞の文末用法に着目し、特にコピュラ「ita」を伴う「kes-ita」「um-ita」「ki-ita」に焦点をあて、考察を行う。これらの用法は、日本語において「の」「もの」「こと」といった名詞化辞が「～のだ」「～ものだ」「～ことだ」というようにコピュラを伴って様々な文法的意味を発現する現象と平行的である。

韓国語の上記三つの名詞化辞のコピュラを伴う文末用法のうち、「kes-ita」は文末形式として「説明」「推量」という文法的意味を確立している。これに対して、近年、本来ならコピュラを伴わないはずの名詞化辞「um」と「ki」も「um-ita」や「ki-ita」の形態で文末に生起する現象が観察されている。

そこで、本研究では、「um-ita」「ki-ita」という二つの文末名詞化構文の間にどのような相違点が見られるのか、「kes-ita」のように新しい文法的意味を獲得するのか、といった点について文法化の観点から検討する。また、その分析の結果に基づいて、韓国語の文末名詞化構文を、形態的・統語的に多くの共通した類型論的特徴を持っている日本語の文末名詞化構文と対比し、両言語の特徴をより明らかにすることを目的とする。

### 2. 韓国語における文末名詞化構文「um-ita」と「ki-ita」

従来、韓国語研究においては、文中に置かれる名詞化辞の「kes」「um」「ki」の研究は、補文標識(complementizer)としての機能に関する研究(李翊燮外 2004)や、「um」と「ki」の意味の使い分けに関する研究(왕문용・민현식 1993, 송창선 1990)がほとんどであった。しかし、最近はこれらの名詞化辞が文末に現われ、単独で文を終結させる用法の研究が生産的になされている(金・堀江 2006, 堀江 2009)。具体的には、これら三つの名詞化辞の文末用法として、①動詞(未来)連体形+「kes」、②述語語幹+「um」、③述語語幹+「ki」は、それぞれ「命令・指示・助言等」「現在・過去の動作・状態」「未来の動作・状態」の意味を表していると述べている(堀江 2009:100)。その中で、特にコピュラを伴う「kes-ita」は、前接する連体形接辞によって文法的意味が大きく分化している(呉・堀江 2012)。

(1) Ecey-nun nwun-i wa-ssten kes-ita.

昨日-は 雪-が 降る-過去連体形 KES-ITA:終止形「昨日は雨が降ったのだ。」(説明)

(2) Nayil-un nwun-i o-l kes-ita.

明日-は 雪-が 降る-未来連体形 KES-ITA:終止形「明日は雨が降るだろう。」(推量)

名詞化辞「kes」は例文(1)(2)のように、過去・未来連体形接辞が共起するかによって、それぞれ「説明」「推量」を表す文末名詞化構文として用いられる反面、名詞化辞「um」と「ki」の場合、コピュラを伴う「um-ita」や「ki-ita」といった対応する名詞化構文が存在しないと指摘されている(堀江 2009, 塚本 2012)。しかし、以下の(3)(4)に示すように、「um」と「ki」にコピュラを伴う文末名詞化構文の例が見られる。

(3) ta tuli-m-ipnita.

全部 TULI-M:名詞化辞-IPNITA:コピュラ・丁寧「全部差し上げます。(差し上げることです。)」

(4) maum-i heshesha-n yeytan tuli-ki-ipnita.

心の中-が 空しい-現在連体形 結納 TULI-KI:名詞化辞-IPNITA:コピュラ・丁寧

「心の中が空しい結納(の品)を差し上げます(差し上げることです)。」

近年韓国のインターネット(特にブログ)において「um」と「ki」にコンピュータつきの「um-ita」や「ki-ita」といった文末名詞化構文がよく観察されている。その代表的な形式としては、すべての述語に該当するとは言いがたく、特に日本語の「差し上げる」に相当する「tulita(드리다)」の名詞化辞「tulim(드림)」 「tuliki(드리기)」を中心に検討したい。

まず、「未来の動作・状態」を表す「ki」と区別される名詞化辞「um」は、「現在の動作・状態」と「過去の動作・状態」を表している。以下の例文(5)～(8)を見られたい。

- (5) philyoha-si-n pwun son tul-ey-os! swunswuha-n **tuli-m-ipnita**^^  
必要だ-丁寧-現在連体形 方 手 挙げる-現在-終結語尾 純粋だ-現在連体形 TULI-M:名詞化辞-IPNITA:コンピュータ・丁寧  
「ご必要の方(は)手(を)挙げてください! 純粋に差し上げます(純粋に差し上げることです)。」

- (6) cwumal kacyeka-si-l pwun-kkey wusen **tuli-m-ipnita**.  
週末 持ち帰る-丁寧-未来連体形 方-に:丁寧 優先 TULI-M:名詞化辞-IPNITA:コンピュータ・丁寧  
「週末持ち帰られる方に優先して差し上げます(差し上げることです)。」

- (7) akichimtay **tuli-m-ipnita**^^  
赤ちゃんのベッド TULI-M:名詞化辞-IPNITA:コンピュータ・丁寧  
「赤ちゃんのベッド(を)差し上げます (差し上げることです)。」

- (8) ches **tuli-m-ipnita**.  
初めて TULI-M:名詞化辞-IPNITA:コンピュータ・丁寧  
「初めて差し上げます(差し上げることです)。」

以上の例文(5)～(8)は、最近ブログで自分の使わないものを相手に無料で提供するためのお知らせとして多用されており、主に書き言葉として用いられている。ここで注目すべき点は「tuli-m-ipnita」のように、「現在の動作・状態」を表す名詞化辞「um」はコンピュータが共起し、文末名詞化構文として成立するのに対して、過去を表す先語末語尾「(-o/ㄹ)ㄴ/(-a/e)ss」を伴う以下の「tulyess-um-ipnita」といった「過去の動作・状態」の名詞化辞「um」はコンピュータがつきにくいという対比である。

- (5') \*philyoha-si-n pwun son tul-ey-os! swunswuha-n **tulyess-um-ipnita**^^

- (6') \*cwumal kacyeka-si-l pwun-kkey wusen **tulyess-um-ipnita**.

- (7') \*akichimtay **tulyess-um-ipnita**^^

- (8') \*ches **tulyess-um-ipnita**.

韓国語の文末名詞化構文「um」は過去・現在の述語語幹に結合するが、コンピュータを伴う「um-ita」は「現在の述語語幹+um-ita」のみ容認可能であり、「kes-ita」のように明確な文法的意味はまだ獲得していない。名詞化辞「um」の場合、例えば以下の文中の「tuli-m」のように、(9)の格助詞「un(は)」、あるいは(10)の副助詞「man(だけ)」を後置させることや、(11)の「culkwun(楽しい)」のような連体形によって修飾されるなど、名詞としての特徴を残していることが分かる。

- (9) **tuli-m-un** pyelwuk-ey chamyeha-n iwusnimt-ul taysang-ulo ha-keyss-supnita.  
TULI-M:名詞化辞-は フリーマーケット-に 参加する-現在連体形 ブLOGGER( blogger)-を 対象-に する-未来-丁寧  
「差し上げるのはフリーマーケットに参加するBLOGGER( blogger)-を対象にします。」

- (10) **tuli-m-man** chamyeha-si-ko salaci-si-nun pwun-tul-i manase~~~  
TULI-M:名詞化辞-ばかり 参加する-丁寧-連結語尾 消える-丁寧-現在連体形 方-複数の接辞-が 多い:連結語尾  
「差し上げる方ばかり参加され、消える方々が多くて~~~」

- (11) kulem motwu culkwun-n **tuli-m** ipeynthu sicakha-lkka-yo~~  
それでは みんな 楽しい-現在連体形 TULI-M:名詞化辞 イベント 始める-終結語尾-丁寧  
「それではみんな楽しい「差し上げ」イベント(を)始めましょうか。」

次に、文末名詞化構文「ki-ita」は以下の例文(4') (12)のように文末に生起可能だが、文末の名詞化辞「ki」のように「未来の動作・状態」を表すといった、文法的意味は読み取れない。

(4') maum-i heshesha-n yeytan **tuli-ki-ipnita.**

心の中-が 空しい-現在連体形 結納 **TULI-KI**:名詞化辞-IPNITA:コピュラ・丁寧

「心の中が空しい結納(の品)を差し上げます(差し上げることです)。」

(12) selnal-ul ceil kitalikey mantul-ess-ten iyu-in seypay **tuli-ki-ipnita.**

お正月-を 一番 待たせる-過去-過去連体形 理由-の:同格 お辞儀 **TULI-KI**:名詞化辞-IPNITA:コピュラ・丁寧

「お正月を一番待たせた理由の(である)お辞儀を差し上げるこ(正座をし、頭を下げた挨拶を差し上げる)ことです。」

なお、以下の(13)のような文中の名詞化辞「ki」の場合も、「um」と同様に「未来の動作・状態」といったテンス的振る舞いをしない例が見られる。

(13) nul **tuli-ki-man** hata.. cheumulo patha pon khaneyisyeon

いつも **TULI-KI**-ばかり する。 初めて もらう みる(助動詞):現在連体形 カーネーション

「いつも「差し上げ」ばかりする。初めてもらって見たカーネーション。」

しかし、例文(14)のような文末名詞化構文の「ki-ita」は、(4')(12)のように「未来」というテンス的意味が明確に読み取れない解釈と、文末名詞化構文「ki」のように「未来の動作・状態」といったテンス的意味を有する解釈、といった二つの文法的意味が窺われる。

(14) onul-uy cey mokpho-nun pwumonim-kkey anpwuinsa **tuli-ki-ipnita.**

今日の 私-の 目標-は 親-に:丁寧 安否の挨拶 **TULI-KI**:名詞化辞-IPNITA:コピュラ・丁寧

「今日の私の目標は親に安否の挨拶(を)差し上げることです。」

このような場合、以下の例文(14')に示すようにコピュラを省略することによって、より自然な文となり、本来の「未来の動作・状態」を表す「ki」のテンス的意味が明確になる。

(14') onul-uy cey mokpho-nun pwumonim-kkey anpwuinsa **tuli-ki.**

今日の 私-の 目標-は 親-に:丁寧 安否の挨拶 **TULI-KI**:名詞化辞

「今日の私の目標は親に安否の挨拶(を)差し上げること。」

以上、本節で述べてきたコピュラつきの文末名詞化構文「kes-ita」「um-ita」「ki-ita」についての分析の結果は図1のようにまとめることができる。

形態	生起可否	文法的意味
「過去・現在/未来連体形+kes-ita」	○	「説明」「推量」
「過去の述語語幹+um-ita」	×	×
「現在の述語語幹+um-ita」	○	×
「未来の述語語幹+ki-ita」	○	△ 「予定」

図1 「kes-ita」「um-ita」「ki-ita」の文末名詞化構文としての用法の定着度

すなわち、韓国語のコピュラつきの文末名詞化構文は「kes-ita」「um-ita」「ki-ita」が存在し、そのうち、「kes-ita」はすでに固定化し、「説明」「推量」という文法的意味を有している。次に、「um-ita」は「現在の述語語幹+um-ita」に限って、文末に生起するが、文法的意味は獲得していない。最後に「ki-ita」の場合は、文末名詞化構文として用いられ、構文によっては、意志性を持つ「予定」を表すという文法的意味を有することから、「um-ita」<「ki-ita」<「kes-ita」のように文法化の程度が順次進んでいると言える。

### 3. 文末名詞化構文の韓日対照

現代韓国語の場合、コピュラつきの文末名詞化構文は多数存在するが、韓国語のコピュラなしの文末名詞化構文は、本論文で論じた「kes」「um」「ki」という三つの名詞化辞しか存在しない。そのうち、これまでの研究では、コピュラつきの文末名詞化構文と共通に用いられるのは「kes」のみに限ら

れると指摘されてきたが、2節で見てきたように「tuli-m-ita」「tuli-ki-ita」のような例がインターネット上で頻繁に観察されている。

これに対して、現代日本語には、代表的なコピュラつきの文末名詞化構文として、「のだ」「わけだ」「はずだ」「ようだ」「ことだ」「つもりだ」「ものだ」などが存在し（益岡・田窪 1992:36-37）、その中で、コピュラなしの文末名詞化構文としては、「の」「わけ」「こと」「もの」が挙げられる。そして、両者の間には、前者の方が、個々の構文の表す文法的意味が明確であるのに対して、後者はより語用論的・文脈的解釈の幅が広いとなされている（堀江 2009:99）。

日本語の場合、「の」「わけ」「こと」「もの」といった、すべてのコピュラなしの文末名詞化構文がコピュラつきの文末名詞化構文に含まれていることから、個々のマーカーは韓国語より生産的であると言える。しかし、近年観察されている文末名詞化構文「um-ita」と「ki-ita」の出現は日本語のようなコピュラつきと、コピュラなしの文末名詞化構文の連続性の可能性を示唆していると考えられる。

もう一つ興味深いのは、韓国語のコピュラつきの文末名詞化構文は、前接する連体形接辞の統語的制約があり、構文によっては文法的意味を異にする場合もある点である。

つまり、韓日両言語では、コピュラつきとコピュラなしの文末名詞化構文、といった二つのパターンの文末名詞化構文が存在し、日本語の場合、両者の間に、形式的連続性が見られ、両者の境界が曖昧である。これに対して、韓国語の場合は「kes」以外に、その形式的連続性が見られないことから、日本語に比べて、両者の境界が明確であると考えられてきたが、「um-ita」「ki-ita」の文末生起を通して、コピュラつきとコピュラなしの文末名詞化構文の連続性が生じつつあることが窺える。

#### 4. おわりに

本研究では韓国語の文末名詞化構文に関して、コピュラつきの「kes-ita」「um-ita」「ki-ita」を取り上げ、これらの三つの文末名詞化構文の文法化の度合いについて考察した。その結果、「kes-ita」が文末名詞化構文として最も固定化しているのに対して、「um-ita」は明確な固有の文法的意味を持っておらず、「ki-ita」は、部分的に文法的意味を有するという点で両者の中間にあることが分かった。

また、コピュラつきとコピュラなしの文末名詞化構文における両言語の対照を行なった結果、韓国語では「kes-ita」以外に「um-ita」「ki-ita」に関してもコピュラなし構文との（部分的）連続性が観察された。

#### 参考文献

- 金廷珉・堀江薫(2006)「韓国語における名詞化構文の終結用法—名詞と動詞の連続性の観点から—」『日本認知言語学会論文集』6巻, 150-159.
- 吳守鎮・堀江薫(2012)「韓国語の文末形式「kes-ita」の文法的意味の分化と分割可能性：文法化の観点から」『日本言語学会第145回大会予稿集』, 500-505.
- 塚本秀樹(2012)『形態論・統語論の相互作用』ひつじ書房
- 堀江薫・プラシャント・パルデシ(2009)『言語のタイポロジー—認知類型論のアプローチ—』研究社
- 益岡隆志・田窪行則(1992)『基礎日本語文法—改定版—』くろしお出版
- 송창선(1990)「명사화소 ‘(으)로, -기’의 통사특성」『국어교육연구22권』국어교육학회
- 왕문용・민현식(1993)『국어문법론의 이해』개문사
- 李翊燮・李相億・蔡琬(2004)『韓国語概説』大修館書店(前田真彦 訳)

著者連絡先：464-0601名古屋千種区不老町名古屋大学大学院国際言語文化研究科・応用言語学講座  
吳守鎮(msj1207@naver.com)・堀江薫(horieling@gmail.com, <http://horie.lang.nagoya-u.ac.jp/>)